令和6年

第3回(9月)波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

質問の相手	町	長•教育長	

1. 持続可能な自治会組織の在り方について

町内では、宅地開発が進み人口増加する地域と、空き家が増え人口減少する地域に大きく分かれ、22の自治会における主要課題も大きく異なってきている。

また、人口減少、高齢者の就業率の増加、地域外からの移住者の増加により、 自治会の役員を担おうと考える町民の数は減り、年々組織運営が困難になってい る。

質 各自治会の在り方に加え、自治会長会を中心とした町全体の自治会の在り方を 抜本的に見直すタイミングであると考え、次のことを問う。

- (1) 町として自治会をどういった組織と捉えているか。
- (2)年間における自治会への行政事務委託の件数と主な内容は。
- (3) 町内各自治会における自治会費(世帯負担額)はどうか。
- (4) 定住奨励金(同種補助金)に、自治会加入要件を課している他自治体はあるか。
- 事 (5) 自治会長が町の行事に参加する機会は

どの程度あるか。

(6) 道路・河川清掃活動など、全自治会共同で取り組むために組織を立ち上げる考えは。

2. 地域公共交通計画と地域における足の確保について

現在、地域公共交通計画策定にあたり、各種調査や関係者の協議等が行われている。

また、町内各地においてタクシーやバスなど公共交通機関の運行頻度減少などにより、飲食店の経営にも大きな影響が出ている。高齢化の進展により移動手段を持たない住民の割合が増えることに加え、交流人口の拡大を目指すためにも、町として主体性を持ち公共交通を整理する姿勢が必要不可欠である。

そこで、地方公共交通に向き合う町の姿勢を大きく変える契機と捉え、次のことを問う。

(1) 地方公共交通計画策定に向けて、現在の進捗状況は。

- (2) 路線バスのダイヤと運賃改定の影響をどう捉えているか。
- (3) 夜間帯のタクシーや代行運転の営業について、飲食宿泊業への影響はどうか。
- (4) 多くの町民から要望がある町内巡回乗合バスについて、実証実験を行う考えは。
- (5)公共交通空白地に対する国の考え方が変わったが、自治体ライドシェアを進める考えは。
- (6) 町外へのバス通学・通勤者に対して定期券費用補助を行う考えは。

問

項

及

要

てド

質問の相手	町	長

質問の相手	町	長

1. 住みよいまちづくりについて

現在居住している街の満足度を尋ねた「いい部屋ネット 街の住みここちランキング2024」が発表され、本県では昨年まで4年連続首位だった西彼時津町に代わり、北松佐々町が1位になった。

本町においては、10位以下のランク外となっている。

そこで、次のことを問う。

- (1) この結果をどのように評価しているか。
- (2) 住みここち、住みよいまちづくりのための本町の課題とその対策は。

問

質

2. ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について

事

平成24年度より順調に推移してきていた「ふるさとづくり応援寄附金」であるが、令和3年度をピークに減収の方向になってきている。このままでは事業者の減収や基金の活用にも大きな影響が懸念される。

項

そこで、次のことを問う。

- (1)過去10年間の寄附金の推移は。
- (2) 今後の傾向と対策は。

及

(3) 寄附金の目的とする5つの事業のそれぞれの寄附金額と活用金額の累計は。

(4) 今後の基金活用の計画は。

U

要

質問の相手	町長・教育長

教育行政について

学校における働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、教師自身の授業力を磨くとともに、教師自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることである。

しかしながら、働き方改革が進む中、部活動の地域移行をはじめ、学力向上へ の取組や不登校対策など教育界が抱える課題は山積している。

そこで、次のことを問う。

間 1. 学力向上について

- (1) 今年度の県学力調査及び全国学習状況調査の結果は、どうだったのか。
- (2) 本町の課題は何か。
- (3) 昨年度の反省をどのように活かし、改善を図ったのか。

事 2. 不登校対策について

- (1) 今年度の不登校の児童生徒数はどうか。
- (2) 町として、どのような取組を行い、改善を図っているのか。
- (3) 町として、不登校ゼロを目指す取組をどのように考えているのか。
- 3. アレルギー食への対応について
- (1) 本町の食物アレルギーの児童生徒数は、どのくらい存在するのか。
- (2) 食物アレルギーで悩んでおられる保護者(児童生徒)の声に、どのようなものがあるのか。
- (3) 町として、食物アレルギーへの対応を今後どのように考えているのか。

てド

項

及

質

要

質問の相手	町 長・教育長	

1. 災害用備畜品の購入補助について

日向灘を震源とする地震で、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された。今後、政府や自治体からの情報に応じた防災対応(備蓄等)が必要とされている。

そこで、次のことを問う。

町民が災害用の備蓄品を購入する場合、経済的負担の軽減措置として商品券の 発行など消費生活を補助する考えはないか。

問 | 2. 熱中症特別警戒アラートについて

環境省では、令和6年4月24日から「熱中症特別警戒アラート」の運用が開始され、過去の例にない広域的な危険な暑さを想定された。

情報発表地域では、重大な健康被害が生じる恐れがあるため自発的な熱中症予防活動を積極的に行い、また、家族や周囲の方々にも見守りや声かけ等の行動を促している。

そこで、次のことを問う。

- (1) 本町において令和3年から現在まで各年毎に熱中症による救急搬送の状況 や推移は。
- (2) 町民や観光客等が一時的に暑さをしのぐ場として、指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)となる利用可能な公共施設や民間施設等を利用する考えはないか。
- (3) 熱中症警戒における小・中学校の対策と対応は。

3. 老人クラブ育成と敬老事業について

地区の老人クラブ毎に定例会や研修会、健康増進等を目的に様々な活動が行われている。また、社会貢献された高齢者の長寿を祝い、各自治会で敬老行事が計画されている。

そこで、次のことを問う。

- (1) 老人クラブや連合会への運営補助等の状況は。
- (2) 町の敬老事業の内容と成果は。また、今後の事業計画は。

質

事

項

及

 \mathcal{U}

要

質問の相手	町	長•教育長	

質

- (1) 本町にある、水道水の水源の数と場所は。
- (2) 各水源に設置されている浄水施設は、何年前に使用が開始されたか。
- (3) 浄水場ごとの給水地区と世帯数、及び年間の給水量は。
- (4) 給水量の近年の推移と将来的な見通しは。
- (5) 水質検査の実施状況と実施結果の公表は。

事

間

2. 鶴の川橋の下流に設置されている堰の維持と管理について

この堰は、農業用水だけでなく生活用水の水源としても大変重要である。

- (1) この堰は何年に完成し、直近の改修は何年前にどんな工事が行われたか。
- (2) 大きく破損した場合、考えられる影響は。

項

- (3) 監視・管理の体制は万全か。
- (4) 鶴の川付近の管理道路の舗装はできないか。

及

3. 学校プールの地域開放について

子供たちにとって夏休みは水に親しむことができる絶好の季節である。

- (1)授業におけるプールの活用状況は。また、水泳指導の在り方は。
- (2) プールの地域開放の状況は。また、地域開放の課題についてどう考えているか。

要

び

質問の相手	町 長・教育:	長

1. 地域公共交通について

波佐見町における町民の交通手段は、タクシーや路線バス及び自家用車となるが、自家用車の運転ができなくなると公共交通を利用することとなる。

しかし、本町の乗合タクシーにおいては、改善を繰り返しているとはいえ、まだ十分とは言えない状況にあると思われる。また、路線バスにおいても便数の減少や乗車運賃の割高感などもあり、不便に感じているとよく耳にする。

そこで、次のことを問う。

(1)乗合タクシー事業と高齢者タクシー利用券助成事業の所管が違うが、連携は取れているのか。

- (2) 路線バスの利用促進対策の実施状況と今後の方針は。
- 事 (3)以前、新幹線の開通に伴い嬉野温泉駅からの交通体系を協議するとあったが、その後どうなったか。
 - (4) 新たな交通システムについての検討は。
- 項 (5)地域公共交通会議とはどのような位置付けか。

2. 教育行政について

(1) 全国学力調査の最新の結果についてどう考察するか。

- (2) タブレット端末の導入は、学力向上に影響を与えたか。
- (3) 児童・生徒の家庭学習の習慣化について学校でできる対策は。

び

及

質

問

要

質問の相手	町	長・教育長	

通	自告順位	9	通	告	者	2番	濵	本	秋	人	議	員	
	第6次派	发佐見町 河	総合計	画の	基本	目標につい	て						
	業費補助	力金があ	る。所	得制	限は	づくり」。 どうなって らくり」の	こいるの	りか。					
質	降の保育	育料は無 何	賞とな	つて	いる	が、第1号 ちづくり	こからの	の無値	賞化に	はでき	ないな) 7 °	
問						る検定料を 今後の課題		とあれ	るが、	、支援	員の /	人数と	検定
事													
項													
及													
Ũ													
要													
山口													

質問の相手	町	長・教育長

通告順位	10	诵	告	者	12番	脇	坂	TF.	孝	議	員
	10	~	\vdash	\vdash	1 * - -	/3/3/3	//		J	H3.X/	\sim

1. 町政報告会の実施について

6月末から8月当初にかけ町内22地区において町政報告会が開催された。多くの意見・要望等が出されたと思うが、今後の町政にどう反映するのか、次のことを問う。

質

- (1)参加者総数は何人だったのか。
- (2) 意見・要望等の上位5点はどういった内容だったのか。
- (3) 意見・要望等は今後の町政にどう反映するのか。

間

事

2. 河川清掃について

町内の河川については、県・町管理を問わず草木が繁茂しており、その対策については、これまで何回となく質問があった。多くの自治会や愛護団体で美化作業に当たっているが、構成団体員の減少や高齢化等により今後の在り方が懸念される。

項

そこで、次のことを問う。

- (1) 町政報告会でも意見が出されたと聞くが、どのような内容だったのか。 また、その対策はどうされるのか。
- (2)除草(草刈り)用の新たな機器等の整備はできないか。

及

- (3) 町長と公園愛護団体との協定で実施している、河川公園維持管理奨励金は、 見直しが必要と思うが改善できないか。
- (4) 大木となったツツジは、剪定・間伐できないか。

U

(5) 法面等のコンクリート化やセンチピードグラス植栽により、雑草を抑制できないか。

要

3. 国民文化祭の本町開催について

「第40回国民文化祭・ながさき2025 (仮称)」が令和7年秋に本県で開催予定である。本町も会場の一つとなっており、国レベルの大会が開かれることは名誉なことである。

旨

そこで、準備状況等について次のこと問う。

- (1) 本町で開催される演目、その期日・会場は。
- (2) 町民へのこれまでの周知はどうか。また今後の周知方法は。
- (3) 文化祭に向けての進捗状況はどうか。
- (4) 出演団体等への支援体制は十分か。

質問の相手	町	長•教育長	

戦後における日本の近代化は、人口増加で農村から都市への社会移動が進み、 地方都市や大都市圏の居住域を広げる拡大の歴史であった。

質

しかしこれからは、過疎地で始まった経済社会の縮小が日本全体に広がり、日本も世界も出生率の急激な低下で人口が大きく縮むこととなる。拡大一辺倒だった経済社会のありようも大きく変わり、いまや少子化はメガトレンドである。

問

人口減少の中で国民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスを効率化していくことが必要であり、また、人口減少が悪いと考えるのは間違いで大事なのは1人当たりの幸福度が高まるかどうかである。だからこそ、「スマートシュリンク(賢い縮小)」を目指すべきであり、日本は人口減少のフロントランナーとして少子化対策と同時にスマートシュリンクを実現できれば世界の範となるものと考える。

事

そこで、次のことを問う。

項

(1) 窯業界の現状と将来の分析は。また、これからの振興策や支援策をどのように考えているか。

及

(2) 本町教育の未来像と伝統文化の存続と維持をどのように考えているか。

(3) 本町の成長戦略はどのように考えているか。

また、町民が「IKIGAI」を理解し、互いのことを尊重し、集団として大切に育むことができる社会として、今日より明日がよくなることを実感できるための意識改革と対策をどのように考えているか。

び

要

質問の相手	町	長・教育長	

1. 公共施設等の管理計画について

現在、町内には各種多様な公共施設等があり、町民の生活の一端を担う施設と して役立っている。しかし、老朽化が進み改善や修繕などの課題が山積している。 町は、中長期的な視点から計画的に維持管理を行うことにより、財政負担の軽 減・平準化を図るために、平成29年に「波佐見町公共施設等総合管理計画」を 策定し、令和4年には改訂版を作成して今後の公共施設の管理の方向性を示して いる。

そこで、管理計画について次のことを問う。 問

(1) 平成29年と現時点で、町が保有する建築物の延べ床面積は。また、イン フラ施設の保有状況は。

(2) 建築物の管理形態にはどのようなものがあるのか。また、今後の方向性は。

- (3) 現在保有している施設で、民間に移譲または売却等を考えている施設はあ るのか。
- (4) 里道または私道を町道に認定する条件は。 項
 - (5) 今後、公共施設を維持管理していくために重要なことは何か。

2. 今後のまちづくりについて

本町のまちづくりは、これまで自治会や町民の協力により、元気で活力あるま ちづくりを行ってきた。

今後、人口減少や少子高齢化が進むにつれ、これまでと同様な考えではうまく 75 解決できない課題も出てきている。

そこで、今後のまちづくりについて次のことを問う。

- (1) まちづくり条例(仮称)を制定し、自治会の位置付けを明記してはどうか。
- (2) 自治会の事務を軽減させる方法は。
- (3) 自治会費や消防費などの負担を減らす施策はないか。
- (4) 環境美化に費やす作業を減らすような施策は考えらないか。
- (5) 今後のまちづくりに必要な考え方は。

及

質

事

要

質問の相手	町	長・教育長